

67 北九州市立大学

The University of Kitakyushu

ケイエフワークス

KF-works

<http://www.env.kitakyu-u.ac.jp/kfwork/>



第13回大会総括



Presentation

プレゼンテーション

今年度マシンコンセプトは「確実性」とし、マシンの全パーツにおいて確実な耐久性、動作性を確保するというシンプルなコンセプトといたしました。

弊チームでは前年度に走行できておらず、基準となるデータが無いため、次年度以降にもベースとなる基本的な車両を製作いたしました。昨年度ではインテークマニホールドからの2次吸気が激しく、アイドルが安定しないという問題があったため、今年度ではインテークマニホールドをGFRPからアルミ溶接構造へ変更しました。また、エキゾーストマニホールドを純正から自作へと変更し、レイアウトの自由化を図りました。アップライトについては、面内荷重を考慮し、肉抜きを残す形状とし、剛性の向上を図りました。エンジンは昨年と同様にKawasaki ZX-6R 600cc 4気筒エンジンを使用しました。昨年度では、電装系の接触等が悪く、始動性が悪いという問題がありました。そのため、ハーネスを新品に変え、始動性を向上させました。また、ラジエターを純正からワンオフのラジエターに変更し、冷却性能の向上を図りました。またタイヤをSタイヤからスリックタイヤに変更することにより、最大旋回加速の向上を図っております。

Participation report

参戦レポート

昨年度では、シェイクダウン証明を提出することができず、車検を受けることができませんでした。その結果を踏まえ、今年度では、昨年度のフレームを利用し、製作期間を早く、早期シェイクダウンをするという方針でマシンを製作しておりました。

実際には5月にシェイクダウンを行なうことができたが、旧パーツを使用している箇所があり、その部分の製作、調整に時間を取られ、結果的に大会直前に取り付けたパーツ等もありました。シェイクダウン証明は提出することができ、大会に車両を持ち込むことができました。

大会2日目に弊チームとしては初の技術車検を受けました。初回の技術車検では未締結や固定不足を指摘され、2日目はその修正に追われ終了しました。3日目に朝一でクイック車検を受けましたが、時間切れでわずか2項目を残して車検不通過となってしまいました。

その後フォローアップにて技術車検を通過することができました。その後、チルト、騒音、ブレーキを受けることができました。チルト、騒音はクリアすることができましたが、ブレーキテストで前輪をロックさせることができませんでした。原因としては、想定以上の車重になっていたこと、パッドとローターのあたり面積が小さく、想定より制動力が不足していたからではないかということが挙げられました。

今年度では車検通過までと一歩という悔しい結果となってしまいましたが、この反省を生かし、来年度大会では動的審査出場および完走を目標に頑張っております。



今回の総合結果・部門賞

●総合68位

Profile チーム紹介・今までの活動

私達、KF-worksは本大会に車両を持ち込むのが3年目となりました。昨年度では、シェイクダウン証明を提出することができないという悔しい結果となり、今年度では動的審査出場を目標に日々活動してまいりました。

Team-member チームメンバー

赤松 高志 (CP)

吉山 定見(FA)、松永 良一(FA)、長 弘基(FA)
内山 一樹、高瀬 雄生、粟田 裕介、清水 裕介、
西寺 拓也、西見 陽至、松尾 佳典、吉田 美壽、
浅野 裕樹、荒木 拓人、安藤 武浩、石井 拓実、
井下 直哉、上田 智哉、西田 健人、原 有矢、
森 丈士

Sponsors スポンサーリスト

川崎重工業、エフ・シー・シー、ソリッドワークス・ジャパン、住友ゴム工業、ソフトウェアクレイドル、THK、トヨタレンタリース福岡、ウエストレーシングカーズ、キノクニエンタープライズ、デジタルステージ、ダウ化工、協和工業、NTN、深井製作所、K's moto、ミスミ、和光ケミカル、江沼チエン製作所、日信工業、オーゼットジャパン、タカタ、石原ラジエター工業所、ニコル・レーシング・ジャパン、FAIS

Team-Movie <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/13th/movie/67.html>